

ロシアの東方政策と極東地域開発に関する研究



国際言語文化学科 **堀内 賢志**

● 連絡先 E-mail: khoriuchi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

ロシア, 極東地域, 東方シフト



ウクライナへの軍事侵攻を続けるロシアは、国際社会の強い非難を受けています。一方で、アジア・ユーラシアをはじめとする非欧米圏には、ロシアに対してより宥和的な姿勢を持ち続ける国も少なくありません。その背景には、ロシアがそうした非欧米諸国と独自の関係を築いてきたことがあります。こうした「非欧米」ととの関係を強化していくための重要な政策としてプーチン政権が進めてきたのが、アジア太平洋諸国との関係強化と極東・シベリア地域の開発を進める「東方シフト」と呼ばれる政策です。エネルギー開発や輸送インフラの整備、極東地域の社会インフラ整備など、ロシアはその取り組みを一層強化しようとしています。こうした政策の進捗状況を追いながら、ロシアとアジア・ユーラシアの非欧米諸国との関係や国際秩序の行方、そして日露関係の今後についても考察しています。



ウラジオストク・ルースキー島の極東連邦大学キャンパス。2012年にウラジオストク APEC の会場として建設され、2015年より年次開催されている「東方経済フォーラム」の会場ともなっている。



中露国境の川に浮かぶボリショイ・ウスリースキー島（中国名・黒瞎子島）とロシア側をつなぐ橋。同島はかつて中露領土問題の係争地だったが、2004年に「面積等分」での分割が合意された。

アピールポイント

ロシアの隣国であり、領土問題を抱え、また資源輸入を始めとする経済関係を維持する日本にとっても重要なテーマです。